

東部地区 地区別計画書

◇地区別計画のキャッチフレーズ ど〜んとこい、アルカディア！

◇地区の将来像 多くの住民が楽しく歩き回るまち、自然環境が保全・活用される生活、地域と関わりを持ちながら暮らせるまち、子どもたちが見守られながら育つまち、地域ぐるみで子どもを育てるまち、人との関わりの中で暮らせるまち

◇地区の宝物 松岡文殊堂、温泉、眺山周辺の観光資源、喜雲寺の紅葉、白川、獅子、国道沿いの防雪林

◇次代に残したいもの 豊かできれいな自然環境、地元を愛する心、人とのつながり・絆、優しさを育む心、地域行事、東部人魂、ゆったりと流れる時間、家族と過ごす時間

■ 地区の現状と課題：

- ・生活環境の変化と人口の減少
町内や近隣に勤め先が少なく、町外へ転出してしまう。また、進学などで転出したまま都会から帰ってこない。特に、若い世代の減少が目立ち、少子化、未婚問題とあいまって人口減少が進んでいる。また、空き家の増加により、防犯対策、管理がされず荒れている、倒壊しそうなどの課題がある。
- ・高齢世帯の増加
ご高齢の方のみの世帯、単身世帯が増えている。高齢のため、「車の運転が出来ない」、「交通手段がない」などにより買い物難民が増えている。生活に不便さや不安を感じることがある。
- ・教育環境
小学校の複式化や統合の問題。児童センターにも子どもが少なく、地区の児童であっても、他の地区の保育園や幼稚園へ入園する場合も多く、ますます地域に子どもたちの声が聞こえなくなっている。
- ・商業施設
地区に商店が少なく、早い時間に閉店してしまう。利便性から地区外、町外の商店・スーパーを利用せざるを得ない。コンビニエンスストアや飲食店など夜遅くまで利用できる商店が少ない。
- ・農業、産業
農業を支える人が減少し、高齢化している。米価等、農産物の価格低下の一方で、目玉となる農産物、物産品などブランド作りをどう進めていくか。遊休農地、耕作放棄地の増加による水田景観、環境保全への影響が懸念される。一方、温泉や国道などの資源に恵まれているが、積極的な観光振興に結びついていない。眺山(牧場、桜回廊、景観)の環境を活用し、観光に結び付けられるようなスポットやメニューの提供や宣伝方法について検討が必要。
- ・お祭り、伝統文化活動
地区の祭りへの参加者の低迷。主体となる若者層が減少し、また地域の伝統・文化活動への参加意識も希薄になりつつあり、参加者が少なく賑わいや活気、盛り上がり欠けることがある。また、出店も少なく、子どもたちがお祭りの雰囲気を楽しむこともできなくなっている。祭りの内容が例年どおり単調で、新鮮味にかけるとの意見がある。
- ・地域とのかかわり
地域活動に積極的に参加される方が固定化している。地域内交流が希薄になっており、何にでも参加される人がいる一方で、地域内でも顔を合わせたことがない等、よく知らない人がいる。若い人の集いの場となる活動が少ない。地域の活動などの情報に触れる機会がなく、どんな団体がどのように活動しているかわからない。

■ 10年後の将来ビジョン：

(雪の活用)

邪魔者や厄介者ではなく、ウィークポイントからアピールポイントへの転換。雪室での保存や熟成によるブランド化、熱エネルギーなどへの利用。

(産業、仕事づくり)

コンビニエンスストアと御用聞きビジネスを合わせた地域密着型のオンデマンドサービスの提供

- ・ブルーベリー摘み取り園
- ・温泉を活用した福祉施設の設置。

(観光)

学業の神様であるお文殊様にあやかった鳴き砂のお守り（合格祈願）、パワースポットとしてのPR。

国道113号と物産館、お文殊様、十三峠・眺山・しらさぎ荘など地域の文化や歴史を活用した展望台、周遊コース、散策道の整備など観光スポットの複合的な組み合わせ、一体型のパッケージとして魅力をより高める

- ・「花」など景観、季節感を感じられるスポット
- ・清水などの地域資源の保存

(地域・活動)

若者が参加できる地域づくり、自由に地区の展望を語り合える組織、風土作り。

(その他計画策定のための活動について)

地区内をカメラで撮影する地域ワークショップを開催し、地域の魅力を再発見する。

地区で活動している団体について、趣旨や内容を広く地区住民に周知広報し、計画や活動をよりよい活動へとフィードバックさせるための取り組みを構築。

- ・子ども探検隊（地域の大人に聞いてみよう）
- ・地区別計画策定後の地域課題、計画について継続的に検討・参加・実施するための組織の検討、体制の構築について

(子育て)

子どもが遊ぶことができる公園（「無料」で「思いっきり」遊べる場づくり）

■ 将来に向けた重点事業

行政主体の事業	地域主体の事業
・住宅団地の整備	・環境保全と自然学習、体験型学習の推進
・眺山、水芭蕉公園、十三峠、桜回廊、松岡公園などの一体型観光周遊ルートの整備	・お祭りの活性化、伝統文化活動の継承
	・地域の人づくり、地域内交流事業

□5年間のうちに取り組むアクションプラン

	地区が主体となることができる活動 テーマ・内容	実施 時期	地区での 主体づくり	いつまでに何をする
取り組んでいく アクションプラン	<p>『定住促進事業』</p> <p>地区にある空き家、空き店舗、施設を調査し、情報を提供するとともに、希望者へのマッチングを行います。また、NPO組織や地域資源を活用する団体を組織し、地域資源の活用を図る取り組みを実施するほか、空き家を一定期間無償で提供することで町内外から定住者を呼び寄せます。</p> <p>将来的には、添川小学校近隣への住宅団地整備に向け検討し提案します。</p>	平成23年度	活性化協議会、部落長会、など	<p>第1段階</p> <p>①地区内の空き家、空き店舗の情報など地域の実情を調査するフィールドワークを実施します。</p> <p>②問題点や課題を明らかにします。</p> <p>③家屋等提供者と協議しながら情報を整備します。</p> <p>④空き家、空き店舗情報を公開します。</p> <p>第2段階</p> <p>⑤地域活動、地域資源の活用を図る主体となる組織づくりを検討します。</p> <p>⑥空き家、空き店舗マッチング作業のための手法を検討します。</p> <p>第3段階</p> <p>⑦住宅団地の整備計画について検討・提案します。</p>
	<p>『自然環境の整備と観光事業の拠点計画』</p> <p>松岡文殊や自然の家、白川等の地域の自然環境を保全するとともに、きれいな星空、きれいな川、きれいな景観の保全のための自然学習、体験型学習、チョウセンアカシジミなどの保護活動を行います。</p> <p>眺山の観光牧場化を検討し、水芭蕉公園・十三峠・桜回廊・観光わらび園等、近隣の観光施設などの連携を模索し、周辺の観光周遊として一体的な観光、自然体験可能なパッケージとしてアピールします。</p>	平成23年度	眺山観光協会、活性化協議会、地区公民館、少年自然の家など	<p>第1段階</p> <p>①地域の環境や観光資源のフィールドワークを実施します。</p> <p>②環境や観光資源の整備・保全・提供・体験型学習のための方法と組織づくりを検討します。</p> <p>第2段階</p> <p>③周遊コースや散策路について検討します。</p> <p>④白川、十三峠等の地域資源について、地域外、町外の団体との連携を模索します。</p> <p>第3段階</p> <p>⑤観光資源を基にイベントを開催します。</p> <p>⑥環境保全、自然体験活動を実施します。</p>
	<p>『祭りの活性化、伝統文化活動の継承』</p> <p>地区のお祭りについて、より一層地域全体で取り組めるように見直し、地域が盛り上がるようなお祭りを検討、提言します。</p>	平成24年度	添川温泉ふるさと祭り実行委員会、部落長会、活性化協議会、公民館、など	<p>第1段階</p> <p>①開催時期、催事内容を見直し、次のステップを考えます。</p> <p>②開催日を広域的にPRします。</p> <p>第2段階</p> <p>③付加価値を付けることで、町外からの集客を増やす取り組みを行います。</p> <p>④次世代へ継続できる体制を検討・提言します。</p>

地区が主体となることができる活動 テーマ・内容	実施 時期	地区での 主体づくり	いつまでに何を する
<p>『地域内の「人づくり」「多様な交流」等、地域内交流の促進とマイスター制度の確立』</p> <p>地域の「人財」を掘り起こし、若者からお年寄りの方まで、幅広い世代の多様な技術や知見を活用できる仕組みを確立し、交流や学習の場につなげます。 孫世代、祖父母世代など、多世代間の交流事業を実施し、子どもたちの豊かな感性を育み、地域の文化・伝統・歴史を継承するほか、お年寄りの知識や知恵、技術の提供、活用を通じた活動で、地域社会の絆を深め、健康づくりや生きがいづくりにつなげます。</p>	平成23年度	公民館、 添川小学校、 PTA、 育成会、 高砂会、 婦人クラブ など	<p>第1段階</p> <p>①地域内交流のための具体的な活動プランを検討します。 ②地区内の行事やイベント等での実施を検討します。 ③提供者向けへ関係団体への説明と協力依頼を呼びかけます。</p> <p>第2段階</p> <p>④受け手のニーズ調査を実施します。 ⑤提供団体と参加者のマッチングを実施します。</p> <p>第3段階</p> <p>⑥実施結果をもとに改善策を検討します。 ⑦反省会を行い、次のステップへつなげます。</p>
<p>『農地や機器をレンタル、シェアによる産業化』</p> <p>農機具や農地を「共有する」、「レンタルする」、「シェアすること」で農業しやすい、続けやすい環境を整備します。また、地域外の方への体験型農業、週末マイ農園の提供。本格的に就農を希望する方への支援となるシステム環境をつくりまします。</p>	平成24年度	JA 青年部、 町農業委員会、 新組織(組合化) など	<p>第1段階</p> <p>①提供可能な耕作地をリストアップします。 ②提供可能な農機具を確保します。 ③農機具の保守、メンテナンス体制を整備します。</p> <p>第2段階</p> <p>④体験型農業、レンタル農地として提供します。 ⑤就農希望者への土地や農機具の払い下げについて、マッチングを図ります。</p>
<p>『自然エネルギーの生産と暮らしの環境』</p> <p>地域の自然エネルギーを見直し、自然エネルギーの活用と農産物由来のバイオエネルギーの創出と活用により、産業化に結び付けます。 バイオエタノール、小水力発電など環境にやさしい自然エネルギーを検討し、身近な環境を見つめなおす機会を設けます。</p>	平成23年度	JA 青年部、 活性化協議会 など	<p>第1段階</p> <p>①実現可能、継続可能なエネルギーを検討します。 ②生産する農産物を選定します。 ③協力できる方を募ります。</p> <p>第2段階</p> <p>④植物性油などバイオエネルギーを生産します。 ⑤生産した植物油を活用した製品を製作します。 ⑥地域の環境とエネルギーを考える勉強会を実施します。</p>
<p>『入るだけじゃない 温泉の魅力とその活用』</p> <p>温泉を利用した副次産業の検討、農産品の開発を行います。</p>	平成24年度	活性化協議会 など	<p>①温泉の廃湯や余剰分を活用した温泉水そのものの活用について検討します。 ②温泉の廃湯や余剰分の熱エネルギーについて、その活用を検討します。 ③活用の方法、商品化などについて提言します。</p>
<p>『暮らしの中の雪対策と活用』</p> <p>暮らしの安全としての、家屋の除雪や、通勤・通学等の道路の雪対策の促進、組織体制を考えます。また、観光資源、産業化としての雪の活用を検討します。</p>	平成23年度	部落長会、 活性化協議会、 添川小学校、 地区別計画策 定委員会 など	<p>①地域の一人暮らし世帯や高齢の世帯など、除雪の状況について確認します。 ②歩道の除雪など、通勤、通学等の安全管理を考えます。 ③雪を産業や観光資源として検討します。 ④雪灯籠や、雪像、イルミネーションなどのイベントを検討します。</p>

取り組んでいくアクションプラン

Ⅲ地区別計画